

8 かごしまの教え

かごしまの教え

鹿児島には日常生活の中で、語り継がれてきた格言やことわざが残っています。

郷土の先人たちが語り伝えてきた様々な教えは、時代の移り変わりにより、必ずしも現代に当てはまらないかもしれません。

しかし、その根底にある人間としての生き方は、現代社会に生きる私たちに多くのことを教えてくれる、言葉の泉となっています。



© 鹿児島県教育委員会かごまる

－16世紀に南薩摩を治めた 島津日新公「いろは歌」－

いにし(え) (え) おこなひ(い) (い)
古への道を聞きても唱へても わが 行 にせずばかひなし

「昔から伝わる立派な教えをいくら聞いてもまた、どれだけ口先で唱えても、自分で実行しなければ何の役にも立たない。」という教え。

－鹿児島県内のことわざ－

泣こかい 跳ぼかい 泣こよっか ひっ跳べ

「跳べないとおじて泣こうか。それとも、跳ぼうか。泣きべそをかくより、『えいっ』と思い切り跳んでやれ」という教え。事に当たって躊躇している者に対して、果敢な決断を促す言葉。

－語り継ぐかごしまの教え集 少年少女へのメッセージ（鹿児島県）－

わか
若しやん時ぬ難儀や 買うてでんしりよ

若い時の難儀や苦労は、将来のために役立つので、自ら進んで引き受けてやるようにしなければならないという教え。



これらの教えの他に、かごしま弁の歌「ちゃわんむし」や「おはら節」、奄美の様子や景色を歌った島唄の「ワイド節」「朝花節」などがあります。

皆さんの住んでいる地域にも、〇〇音頭や〇〇唄などがあるのではないのでしょうか。

唄や踊りもこれからも残したい、「かごしまの教え」の一つです。

☆ 11月第3週『鹿児島県方言週間』

県内各地域において世代を超えて受け継がれている方言を次世代へ継承していくことは重要であることから、県民の方言に対する関心と理解を深め、普及の促進を図るために定められました。

☆ 2月18日 大島地区『方言の日』

鹿児島県大島地区文化協会連絡協議会が、近年、衰退しつつある奄美の方言を保存・伝承していくことを目的として制定されました。